



文
3193
5

奇異雜談集卷第五

目錄



一 破くずまれたのを上うせすべ事こと

二 壇竈だんとう大おほ輪わ小こ矢やの矢やの矢やの矢やの矢や

三 三さん事ごの小こ刀と盜ぬすみの矢やの矢やの矢や

四 婦めの魂魄こんぱく妹めいの神かみとりよりまゆ笑わらひしも

新氏
新定

奇異雜談集卷第五

○

一

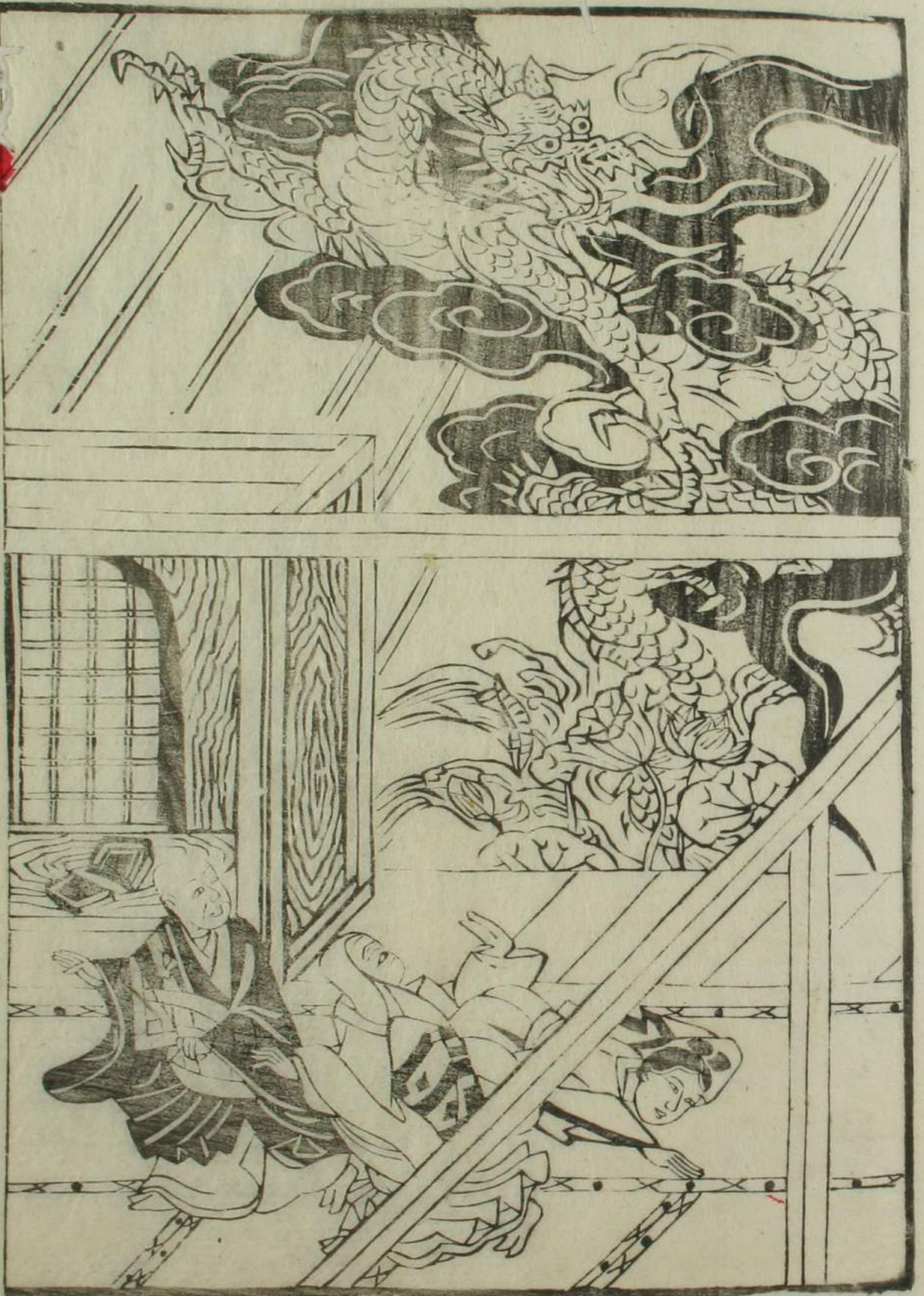
硯すれおのみくえよせー本

或いのまれんこもりていく。じうー小金こ河かの宿と云
人ひとわら。國くのあやうらん。がくのまくく。今いま
うべーけりじ。全ぜん河か全ぜん世よのとれ。稼う家いのまわり。
詩号忘わ却け僧そう教きょう大だい人じん。こもり沙湯さゆわら。寺てれ。富め賓ひん。硯すーえ
り。もうつねよしれ。あく。どもうてあり。ま
ごくもち硯すー。じくりきくののま寢ね。あく。
のうそーれののう。方ほうよむなくわけとく。書よ沈ふくのと
一いにいのの硯すー。前まれ。前まれ。ともり。長な老ろう。
者し沙湯さゆ喝け。食く。敵てき。人じん。度た。度た。ゆく。じよ。半はん。

時、びよりよんもらうびうとうのそじりよど
てして、門よもれく。二うちもそれのまぢりよれんの
くみよだ。現の中はと壁よそれく虫よあり。じうじ
ーのよくすて。二うちびうりゆう。桜のよにあり。あ
きじくねよあり。かふ喝食この虫としろを
波長老御。くもとべいとて。扇のよと
ゆのせく。波よのよとよまば。あゆやく。居伸
けりく池よのよとよまば。あゆやく。波長老御。
それよぞうく。人よりよすよから一人よすよど
でに三さんわねうて。波長老御。よまれ迎
えりく。波よぬよす。波長老御。空よとひきりく。

言ふぐりて。おとてのあうさりぐれぼく。長老侍氣
あけれど。電雷をよめうて。うじ。うる言
すやよめり。他卿。おとす。毎くと。く。これ
れよめり。おとす。おとす。おとす。おとす。
先へよく。て。電雷をよめうと。おとす。おとす。
て。おとす。に。おとす。おとす。おとす。おとす。
足見く。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。
おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。
おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。
おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。おとす。

あらりての山よりとくもゆきの山の観とされ
る。まくわらひはあらむどよれめものもくとく。
りのわらわととくもとくわたり古老の人を
見とくとくと詫ふを油よみ年山よみ年。里町
年。二年とくも詫とぞりててよあらうと
いはくとく。かね浦底の石よ詫みとせんよじされ
く。年とくもく。の石山よあら。と。年。のね
えにあら。年。の内。み。石と観やう町詫み
その中興よあら。奇異す。さやりもく。が太宗
の道湯歡喜光寺の多良署の名号だく。



(二) 墓毫た端のやうり机のじりとよ

津乃山兵庫乃めに墳底より脚あり。左はよ墳
と右はよくし。右内よりりやや舟へ。そのままで
ゆゑと二人塙底よりくと舟と舟と舟の舟の長
くさくすしてあ方よくらあり。左へこゝへつて
右へよかくやまとく。外もよじる舟ねとくびく
とく。和すよか。左へん女のもよびまでよとく。右へ
くうく。ゆきのくらゆきでも。やよむされよ。れ
とく。けりてたよく。毫のトだ端の中より
じ続かくり厚とりして膝のよよとをさだへ

ふりり。め一がやとよよこも毫のよよりえ
ぎ。おもとよどく。やうりよのトもよれと。机
よのく。よつてよく。もれと女なり。そとを机で
やく。よく。めくーとやくへく。毫のトへよも
えよりとよく。めくーとやくへく。毫のトへよも
もれとよてよく。めくーとよく。めくーとよく
しけとよく。めくーとよく。めくーとよく。めくー
めくー。男あれとよく。めくーとよく。めくーとよく
しよく。めくーとよく。めくーとよく。めくーとよく
めくーとよく。めくーとよく。めくーとよく。めくー

きの件りしといとこれじゆかやまくとて
じやせ居と市ぬけして賣るもそづくまく
うと入く。うにつけて行く。次二、三市までえん
と思ふ。通てみ下ゆけじ。によんとみどりこぐ
ふに小男一人。おにじらて我とすうじ。づくにま
とやまがへ居とすりにねくとこよ小男のまくとれ
うと居といよむくわらうとばまかくひよじ
とよ。じくめいこくわらむやく。じくじくやく
うめいめい居とわせばらうとに居けり。代を音
えよぞとよろ。どもくらむと。小男代立りん
ゆくうめいめい居てよろいき。どもくらむと
居

入でうよほりてうらあようう。せきと立百又小
うりてううとよが。じくとよとよづくと
とひじかよとよせび。うめくとよとよ。
うめとうめせび。うのやれ立され。うのめくうめ
うもめく。立もめく。うめく。うのめく。う
男よとげく。居とくうやく。うめく。うのめく。う
きく。股立く。うめく。

せふねう。うめく。うめく。うめく。うめく。う
じう。うのねめあ。うとく。うだ。うのやく。うめ
く。うのうめあ。うとく。うめく。うめく。うめく。う
家よ後摩木とくとくとく。うめく。うめく。うめく。

ゆく。三せの法佛大輪の上よりやく。大法輪と將をえ
ゆく丹霞本仏と焼け窓主看眉齋齋翁としき

三 三景の小刀との事

辻油小海篠山道場の寺傍正体老人よりて之と
く我守の門あらぬ頼り般若庵あり。づるめ小刀と
うりきよすわふとれ小刀みとて。研めくとく
じひぐまれ小家よ三景にうつ蜀みだり。又半
てはかくとくかく母のさんごとくじやにま
里て化軀からくらにまく小刀とくとくにまくす
がくらゆよ。よくまくとくよ。辛もと不剛わりて。門り入
て。まく化軀よ。くちてみまく。小刀一けんをくわめ。そ

いりゆせかよ。うりうらとやくじよ。今ハ
うて。金らよ人とくまう。にめううべとく
うぬとく。とくうりゆく。お袖ゆきとつとく。まふと
りとく。けよ。あく。とくとく。とくとく。ねとく。とく
戸のうち。ほん。うれり。のト。ゆとく。とく。とく。た
へ。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

小刀ととひぐおりに爲まくじうひのすり母。小刀と
りらもてつてゆく。さばくね。すき乃小刀ととひて
あらはめ。りらてゆく。そくへぬ。まき
のゆく。さうめく。さりて。すきのまくらへし。
ゆうけく。やうして。ゆく。ゆく。ゆく。
じ。母れい。くはくはく。ゆく。ゆく。ゆく。
ほく。ゆく。とく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
て。ゆく。とく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
ら。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。

四 婦の魂魄妹の神とくまよ祭りまつり
新宿しんじゅくか勢ぜ新話しんばなしとくよ書かり。奉まつ美うつくな。新宿しんじゅくを
ゆく。書かり。今ニ三さんヶが家いえと。ゆく。うのまくせ
勢ぜと。幡はたの。紙しと。うだら。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
勢ぜと。幡はたの。紙しと。うだら。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
勢ぜと。幡はたの。紙しと。うだら。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
勢ぜと。幡はたの。紙しと。うだら。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。

て記きらむ

金剛釤記こんごうすゑき釤すゑ。や。鬟くわいよ。と。地ぢ。ゆく。而は
く。鬟くわいよ。と。よ。唐からか。男女めんじょ。人ひと。れ。鬟くわいよ。と。よ。し

よけく鑿と釘よもて。とあくとあげて。半
身でとくわらし。日、ばよひや。此女の筋曲。以
て。とくわら。釘と金浪洞。铁陽松。骨角。行本
とくわら。とくわら。波乃鶴。よ。花のゆくひ
とくわら。とくわら。金鳳。と。金。とくひ
風鳳。とくわら。日、ばよひ。とくわら。天羅。と
楊貴妃。とくわら。とくわら。見。とくわら。天
と。金。釘。釘。の。物。と。とくわら。也。

え。楊。う。大。徳。と。中。の。よ。す。り。よ。楊。列。よ。具。階。櫻。と。こ
り。の。わ。り。が。う。こ。の。人。よ。あ。く。い。詮。人。よ。く。高。人。か。り。ま。の
え。ん。か。よ。ゆ。崔。廟。故。と。よ。ア。ウ。り。と。そ。官。人。と。給。く。



國と遊樂の女二人あり。此より北へ行ひて、
三二三十九里、崔君の男一人あり。此より南へ去
のには、かくも崔君のいふく城が西城の城也。と云は
る。此より北へ、まことに游樂の女す。崔君
は、此より北へ、游樂をめざして、北へ行ひて、
崔君は、此より北へ、游樂の女す。崔君は、此より北へ、
金剛沒と紙よろづみとぞ望む。崔君は、此より北へ、
もありて、游樂の女す。崔君は、此より北へ、
北へ行ひて、游樂をめざして、北へ行ひて、
北へ行ひて、游樂をめざして、北へ行ひて、

ナシモアラ崔君邪。ナリ。此れのうぐり。是の事
有す。ナシモアラ、うぐり。よ。此が事もあらず。
そ如前をされ三年、おゆり。りものうゆり。ゆ
きれど。三年よどよど。行ひて、北へ行ひて、
うゆえよど。行ひて、年十年をぐく。アリ。も
う。崔君何年ゆく。ま。行ひて、北へ行ひて。一族親類乃
キとよどく。食ふたりのこぢみゆく。ゆとしり。ゆ
り。唐もは家際し。おとて。行ひゆ。よ。此を
あらわし。都よりを國のを行ふたるて。故鄉と
かく。かく。北へ行ひ。北へ行ひ。北へ行ひ。北へ行ひ。北へ行ひ。
の女す。北へ行ひ。北へ行ひ。北へ行ひ。北へ行ひ。

ハ妻娘とて八年この方へより西歸の後
まよてつゝの蘿君ともぞよきんゆあらゆへり
他敵の伏せひよどりかたり海の進退きごあら
みちも原の海の敵是もさざへよとぞうけを無れ
トハよなうりとくとくうきね。母の心かわれのもの
じきゆへよ防禦よくいふ。蘿君てよいにてす
年一書とはせしと無事うそとてふとせす。きんや
くにまくは金やうるやうとくも防禦のそく残つまび
語とわよとじきをせんやばんやむかうと
やく。母のうんどうのこりり世人もれいとく。無娘
夫客めしてよきゆくしゆりひかがく會くとす。

あくまくうづく。されとり。無娘として、娘をしまれ
血乳をすく附はれり。あふ男とせよのむかへん食
く。もれはりてやうひとえへりとくまくねうぢふ
き。あがうゆく。まとほくとくとくとくのやま
ひきぐく。乳よだかすみれぐくとくとくとくとくのやま
うえてたぬかて。月乃く。先のうち死まで。又母娘
一家が。あがみげくとくとくとくとくとくとくの
髪とそり。あがみげくとくとくとくとくとくとくの
く。鬢髪とくの。うれい。とくとくとくとくとくとくの
うく。ほねの。く。也。極よ。ゆかり。極き。極もく
とくとく。衆の。や。う。に。う。とくとくとくとくとくとくの。

かとすとあらりくわう。かまととちうるにわうりてと
もとれしを地とて、蓋とあつたるむじうにばせり
さげあめりて、ともにうを地とそくまうり真娘のトジ
もとよ極よりきよ母の全亂役とくにく真娘よも
りてつる。是うんじ、おのゆか乃地とがくとまを用
み。鬟かうて、匂うどもくとあうかくゆます記
もゆりあ。はよ極のゆがめをせくとまも、中陰と
もれりうり、中陰のるとを、殲もうとひぞや陰もくと
世空よども。方この極とやうりとく右臺也過
ふあるりうり、中陰もくとのじよの崖郎君がよ
られど。吳游樂の家ととづねてうわらも。芳一
九

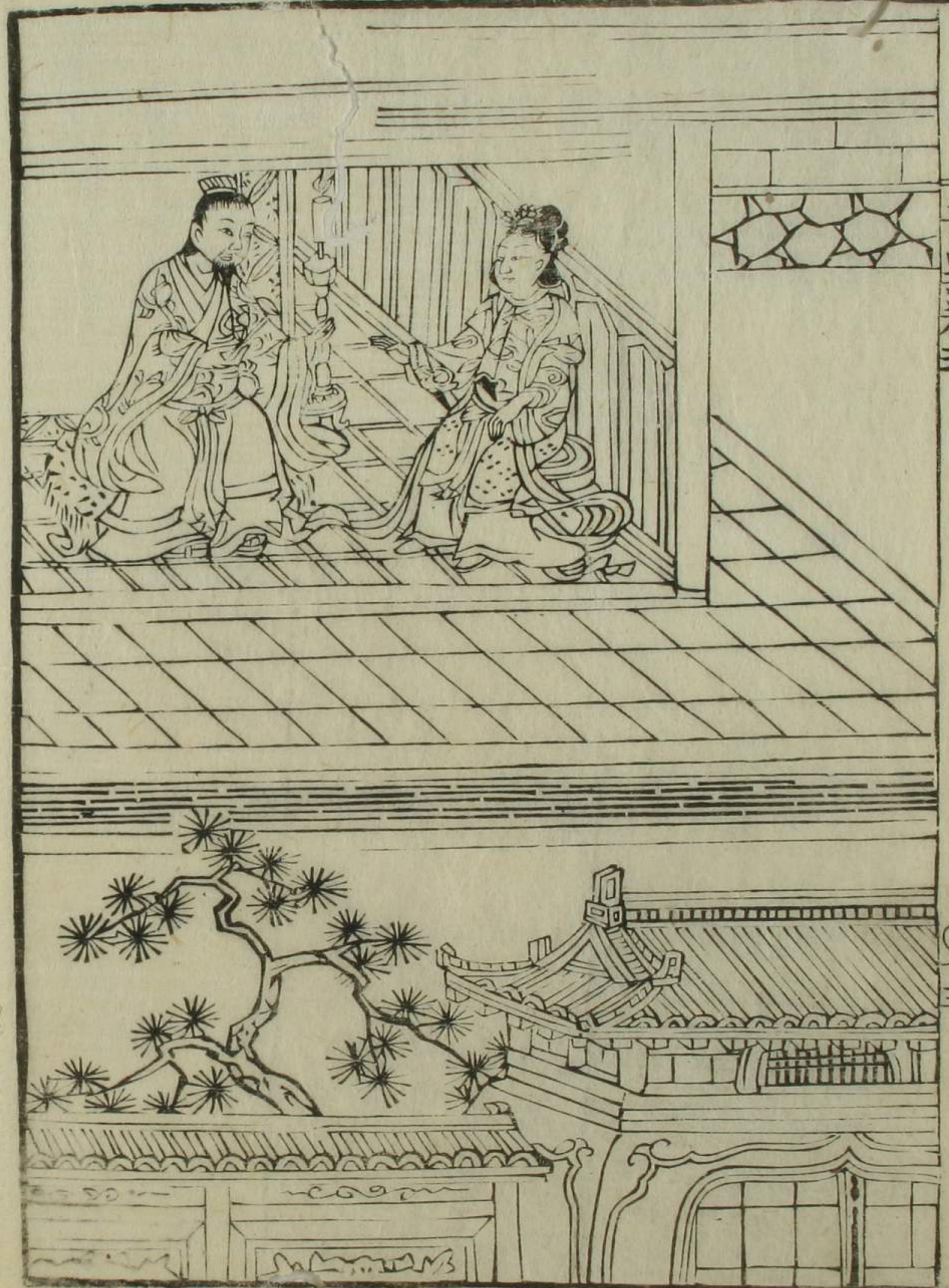
あらぬ崖君のゆがめ、蟹野の心とくして、ゆくえ
ごく又崖郎宣德府の知行よほど半と三房
トヨアシテ、其の事御もゆきりあくゆく。平成年ぶ
びとて、かねど、故御身房のゆうへと御書院を
さんめう秋を年にみそと、老母を教年うれよ元
去こと、素生れ地よあくど、親族のもゆきりあくゆ
か里ととゆくとせば、防禦、らかぐもとあくへぐ
とくづくとくづく。名を崖亭うらりねがつくと、
とくづくとくづく。防禦、とて内よびていとく、我じ
もくの奥底うらりねのまん屋くあり。す年から
他の治と林やうらりね。崖家のぶりとせりの氣たり

て身もとまで死んでしまふ。まことに、
くさりとあらう。崔寄はやうやく、やうと
あれにて致意と防禦をつく崔寄にては前
よりて、位牌とをじし崔寄もとをもあた
きかくとがつて、防のいくうちんぐ亡父崔
君も。我らん乃故人なり。故人乃みどりからうが
みどりと、眞娘うとくひて。かほのゆがりとく
うれびくのふとやくせよ。門のゆくにふ
あわり。外起のゆくとせよもよて。もくらふる
ぬとぬくと度とく。もくらふるとく。お日
のち三月三日。清明の朝す。防をうんじせんの

風流として、ゆかのむかひて、號を祖一族の號とす。而も
是日中の藝アリヤリ。防禦史端へ眞娘を詣
はれ場所のむかひて、眞娘が極とす。アリ。崔
寄とむかひて、眞娘とあるとせよ。じ日れて、みれり
崔寄門。よがのよりよまくとくじしてれあり。
防禦を候す。それともとくじて、母と眞娘と轎ニ
もくらう。これより母の牆とく。次よ牆とく。方時
あらゆく。母の御ごめりて、地よがの。崔寄げて
もくらう。とくに金剛杖アリ。つまこのアの
もくらう。はよゆるともく。母の御く。もくらう
もくらう。人ゆことう車かうりて。中門と

てよとくをばけよむくとあきらめゆ。我おに人
里もせりびとわくとくらむて取よとせよ
算のぬそがうんぬがよふ翁とくすとげふと
もくらとくにあへん。あらいんと歓喜一且病すま
ろに我家の門とまくを一あわり。もととせんが。よせ
どしてえくをゆよ。めりて戸と切るが。室を守
ふ人教あり。きのうとみくをそつあがのくらみ
女のりとはぐもびくら。崔哥とくわくを拒んを
もれと女とこに座よつてこくらうとやうらもと
にわく。やくよくらしてゆく。我を興娘のゆくと
ま娘うり。君の家若とうぐみうがためにまわら。

角じとかれとくと。崔哥。うつとく。多情とく
一とりぐと。人のかくとつん老父もくらすむり
あく。さうりあまよと。我とくに老父乃母とく
小うづぐ。もやく。もうりおとくとくと。女のゆくと
み將うとく。全風刃とく。善君とねむやされ
まうんざら。さうりもすりしり。我じみのくらとく
きく。せびくとく。人かく。父母とまくとく。は
かとくとく。下懲くとく。しまく。うとく。べんやく
崔哥とく。あくとく。さうり。崔哥とくとく。僻遠とく
まく。嫁宿と。わくとくとく。下懲くとく。女あらむ。崔哥
多情とくとく。せびくとく。うづくとく。ひめく。



次り東をまよひらへとあひて、是よりくるく
本入りうると、一月またとさうぶりり。うる時女のやく
今やうぐく（のよ）うござは、あくとゆきすとえうり。
くの、とくみのよしゆは、麿のこつりゆか。りうわ
くの、老父のせちあ、ばぬと経、一眉目。とうくえん
我國ねあう。逃びあうよ通ゆ。うづつとさうがむ言
乃國とかかゆ。身もかを風とくううだ。行がく
きよとうとくそ、がれゆふ。往とを尋ねよくまじと風ふ
うんとつじ。宦奇のゆく。我うき行もあひのぞく。そ
風くともかひむんおは我そのゆくとぞくすりうる
文宦部君の叶うり。やとのひくうんあり。翁ハ金葉。

眞に縣より居て。まことに御くわんざり散
目の風。代々の家。そしてゆばさんのおづひあ
らんが。かと聞く。て。本來はんじゆきと
しりり。女。おはん。ま車にけにとくとくへとう
うく。金風釵。とくしてどきに門とりぞく。身
のりて行き。散目を。ばして。縣りう。
金采。かめとくづねれ。が。とくさり。身あり。
とそとそと。村の長とくそとそり。崔竚。わから
ふ。と。あらん。とく。まつりと。金采。りそく。あらん。とく。
先とあらんと。崔竚。楊列。乃。故居。先父の姓。顧か
らひり。我乳。子の内。乃。名。と。げ。れど。金采。年。かく。

よやくと。も。い。と。と。と。と。と。と。と。と。
も。ち。中。堂。と。わ。あ。と。と。と。と。と。と。と。
来。門。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
親。族。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
サ。婦。と。興。と。う。が。ゆ。と。金。采。と。と。と。と。
ま。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
母。や。く。う。今。よ。と。君。う。り。卑。家。よ。御。來。縣。う。う。
ら。う。忻。う。り。且。又。乃。食。往。河。の。い。と。う。ふ。よ。あ。
皆。く。と。の。一。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

とす。とくにあんて。友人のまことつよす。わく。うじ。
儀。しどとじとうねんとく。崔奇。しやく。さく。
のうとじうりあり。とりより。一そく。金事。よ。謝。
ゆみ人。舟より。そく。うら。楊外。よつま。おの
そく。山崔奇。さく。ゆき。うら。代。舟。よ。ゆく。ご
つ。崔君。うけ。と。じ。く。い。く。う。う。う。う。う。
じ。う。ば。全風漫。み。れ。と。よ。く。と。と。崔奇
ん。う。と。も。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。崔奇。う。か。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。防禦。む。御。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
門。の。と。う。の。と。う。の。と。う。の。と。う。の。と。う。

と。柏葉。ふ。是。ゆ。と。に。老丈。う。り。よ。ゆ。
と。う。ぐ。崔奇。地。ゆ。佐。く。死。危。と。う。と。う。
と。う。め。と。う。と。う。み。と。防禦。絶。惑。と。う。と。
と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。
と。崔奇。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。
と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。
と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。

御事トシと申り候とゆうして。のちに御ととび櫻お
とえうりやよつて。防禦の事。雀子スズメのとどま
虚タムす。我ガひハあき娘ハタハタをなシ御メイ事シメのう
くゆりて。とりやうへとんこ。麻マみミ。將側マサクラと人ヒと
りうち。麻粥マシラと。只シテ禁ヨシムから車カマツチ。一年イニよとじり。
あよせアヨセわんや。うごく。他女カナガ。雀スズメ
奇ハヤシ。うぐい。娘ハタハタと。うりて。みよかミヨカ。と。うり
て。あげじく。うりよと。防禦マサクラ。使マサシせととつトツと。象
童タケシ。けつと。雀スズメを。もとと。うらうに。まわる。年イニかに
あり。年イニすと。もんと。かうえして。みど。か童タケシを
かつら雀スズメとせめく。海妖性カイジヨウセイと。し。雀スズメも

ゆくゆく。あやと。で。うらう。防禦マサクラ。おはしだ
け。けれど。防禦マサクラ。う。ゆうへ。やの。そ。雀スズメ
御マサクラ。金鳳紋キンボウモンと。つ。て。防マサシ。か。と。防マサシ
みく。うく。是シタ。興娘ハタハタ。髪カツラ。よ。高タケシ。て。極マツコ。よ。至タマシ。う
めり。めり。むク。て。今イニに。う。う。や。み。中の。き。と
ど。う。ひ。づ。く。銀シルバ。と。う。い。よ。ま。娘ハタハタ。や。と。ひ。う
本ヒトコと。穀ヒエ。と。う。い。よ。ま。娘ハタハタ。と。す。わ。ん
。その丈トヂと。娘ハタハタ。と。い。よ。ま。娘ハタハタ。と。す。わ。ん
ふ。ま。う。に。雀スズメ。君ヒメ。と。筋スジ。い。よ。く。波ハタハタ。今イニに。ま。う
ふ。ま。う。と。他の。る。よ。と。娘ハタハタ。と。う。い。よ。ま。娘ハタハタ。と。

我懲りては崔哥と妻の死とあひて、うんと欲しきのめぐらまつて不吉のよそさんをやまひゆふにまわらひて。かくかく我心とすらぬむうごとくもんと云ふ。ふや中のよりみれやうもんからみてまんと云ふ。ふや中のよりみれやうくもの身とみせは。我娘かして云ふ詫形隊と舞娘かり。又娘と云ふと詫形隊と舞娘かり。又娘と云ふと詫形隊と舞娘かり。又娘と云ふと詫形隊と舞娘かり。又娘と云ふと詫形隊と舞娘かり。又娘と云ふと詫形隊と舞娘かり。又娘と云ふと詫形隊と舞娘かり。又娘と云ふと詫形隊と舞娘かり。又娘と云ふと詫形隊と舞娘かり。又娘と云ふと詫形隊と舞娘かり。

あらうんと云ふ。世人をうら笑とね。我心と
又崔哥とよきとめりて、まきあひて死とゆる
時、ゆきとく。ゆきとく夫婦とめりて、ばくうんと
引くとく。妻とめりて死とゆる。またうんと
やくうして地とゆる。またうんと死とゆる。また
み湯とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
またうんとく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

金風杖と市へかうりて銀二十挺とえて。ものにも
曉鳥帽燭臺等、漫幣帛等を買ひて。浪浪より齋
して瓊花觀とつゝ山上の寺よりおもてて。達應寺より
通じよ令じて。二日三夜寺よりひときどく。又より崔
奇よみそといふ君のよびひときどく。敵船にあり。
船のとおりとどく。海にてすく感じたり。船にあり。
とを娘柔ねり。崔奇や。まづうなづんで。坐す中身
きり。り異りあつる。

奇異雜談集卷第五終

目錄

- 一 女人死後男と宿の附（引）也。もとより
二 千将莫耶う鉢の事
三 引馬の法事。申陽同。三女とす
ほり。もとより。家死とせし事

奇異雜談集卷第五終

奇異雜談集卷第六

(一)

女人死後男と棺の内へ引也しうとす

唐かの正月十八日の夜。ある家の門ひとりをとらす。
樹木の下やうのところにとどりて、門がくをあゆく。男
安達（やすだ）人乞（こ）とさんく。枕（あしき）よりすまくわきびあらえ
事。日午（ひごろ）の晝（さ）のところから、是と三（さん）を下深（さかふか）め
とく。一年か三度天帝（てんてう）わざくさりて、
の苦業（くるぎょう）と厄業（やくぎょう）と記さう日也。正月十八日と上元と
正月とを育（いく）とむえ。冬とあるなり。七月十六日
と中元と。十月十八日と下元とあるなり。汝也
よ。唐かの上元の夜がくの下よ。さりとどあ。

て天帝とまつる。したまつら是七月酉卦。十八日

よ懸墨とやうくま日小あこうから

牡丹灯記

牡丹の花の根の下によ花二所わいかよ

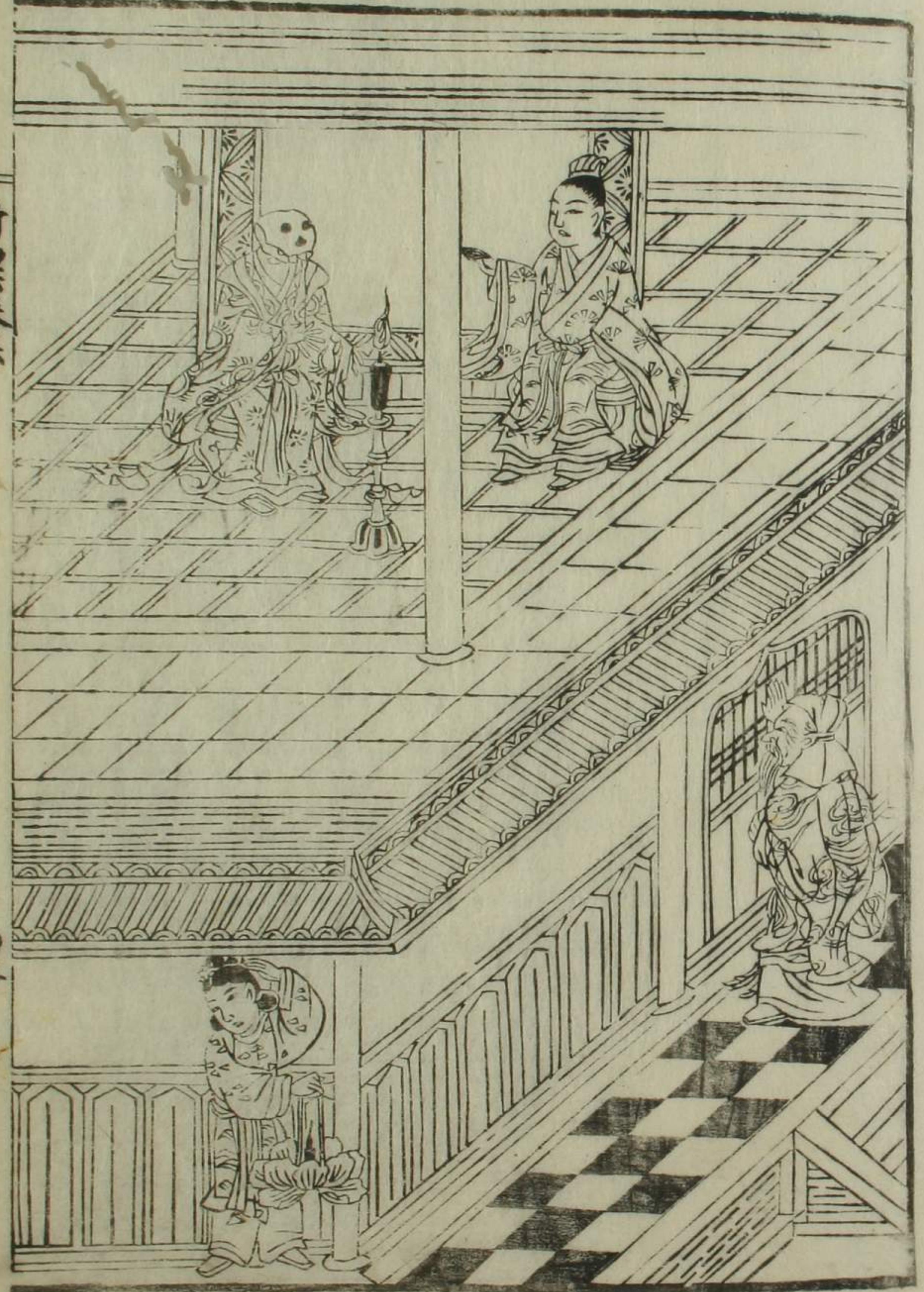
ふくらとおもむけむらむらけり。是とみの牡丹

がとうから

え御のまの室正年中八とす。明列の後、
隕のりんへ喬生たりのあり。あと一月して、春より
かて閑居と正月十八夜よぞりて、従人れを打
落と見くあそびけとぞ。喬生とゆきりて、
あるがみして、さうにかあそびて。春のとだよきり。
后の月のとあまくたまうに。アラヌ裏の藝者一人

ありて、み朝の牡丹灯とくよくうげて、さむよのめ、
後よ。勘定カザヤフとくま女一人きく。御よゆ。喬
あれと見えくやじととくべどもつらがけ。てらく
まれがくもと。とくぞれたる事、人なり。年に約せ年十
七年の禮。よりの袖かし。ゆやうよあじ。氣
あうき袖。ゆく年とくよく、袖あせり。喬生
かすかくまくらりと。にけふゆくよく。ひけ。あ
ひとされよむと。あくへとあくとくらしてゆくと。ま町
うちりゆくと。男女そりよむ。喬生とくよく。櫻画く
く、面見。人よあくと。月トよく。先くよく。と
かのくよく。うとつぐ。喬生とくよく。と

てゆく我が身どうして年より若んや。
つるやとりへど女とわらうあづみに鬟とへなを
金毬とり牡丹がとうげくさむよねくぞ。これ
そら女乃きとりて我身より入と金毬とへな
一乃きたるや。女と申す雲よ傳りゆくわらう。そく
さの宿遇とも懐とくれ花とく。さあうと飲候
ときりし。せぬあぐいすまうに多情すく。因よその壁名セ
唇とくらひとくじ女のいと姫と翁代君の康卿。
翁代君とお方叔とみづち放奉化刑判のじとやけろ。
えんもくとくらふ。又母兄ありれ。朝政一族の
歌者も坐ひ。せのゆをやうじゆく。



董二と二人舌と脚面よもよもきのうだり。とひづみ
わ。うらうとくへい。まきをくえん。あくはとくふくが
うとうう。喬生のちのまかむう。うごくくーて。とく
あくすき。うかぶみの。やう。れよううう。あが
うとうう。れうう。れうう。れうう。れうう。れうう
と。あこ。と。せん。き。と。せん。き。と。せん。き。
あくすき。うかぶみの。老翁とく。とく
あくすき。うかぶみの。老翁とく。とく
あくすき。うかぶみの。老翁とく。とく
あくすき。うかぶみの。老翁とく。とく
あくすき。うかぶみの。老翁とく。とく

の人のふといひ旅人よとし。されどうとうとあり。日ゆき
かくさんとす。喬生渺々寺の門の多くあら廟
家とゆきびくーして。而も廟祭もううりておけ
じ。らううれしけんとす。のむ雲あり。肉も枢あり。白
紙年中の名とうそ。照り文もとく故奉化
符外判ひじとも。牒卿乃枢とも。前も双駕也
牡丹がとうけ。トヨ一乃了鬟の童女とさへ。
そのうち金蓮の二字あり。喬生これと見
ゆの毛うらもととぞとくばつとす。寺とて。波
をうりみどりて。とす。すりぬれとすりぬれ。う
かす高とすりて。波かきぬれとすりて。うかすとすり

やそれのゆき。吉妙親の魏法師と。政宣符は。眞
人のかよ。すり。符乃く。廟時身一とも。すり。
ゆゑ。金もゆえ。是とすり。ゆよとく。明殿は。喬生
吉妙親の内。ゆ。修。それ。法師。その。め。と。う。て。お
と。う。く。妙。觀。と。ん。す。と。う。て。ご。あ。く。ゆ
下に。ゆ。と。お。あ。く。と。だ。ゆ。と。う。と。は。度。も。と。う
有二。ほ。と。お。あ。く。と。だ。ゆ。と。う。と。は。度。も。と。う
一。じ。う。き。と。り。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う
と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う
と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う

ある。一月あさりより、喬生が死んでからてゆく。
され哀縫稿のあらうりもゆきて、友とつんといひ
そのうち教日喬生とみだれど。初もその夕べくま
らううこととあやへんて。哀縫稿のあらうりは
そのうりの事とくじなのつぐ。喬生教日うけた
やにとひて、酒とのそよひてうる。酒をすめら
と並くとみく。そのうちもくじとく。初めはやり人達
を酒よきひて。魏法師のゆうへんとこもれ。又歎寺
主ゆくやとづく。歎寺の門よへ。西廊と極まく
せき。古塗の内。極あり。歎寺のちうり衣の衰をと
かく。是喬生が裳下くよつて。ヨリから。極めうい向紙

正しくてあらうに喬生がゆうへぬる。ばよみみ乃
牡丹がとけ。童女のうへゆよ金運の二事。乃
乃も。すくいとく。うへゆよく。敵とやれ。寺傍も寺
あく極りふくと。のととくわげて。もれど。喬生
死りて。うへゆよく。ゆる。女もああまで下にあり。
女のうへゆせつけうへく。寺傍放下して。それも
ね春。化列判。荷君のじとありし。死をう時年十七。
柩も出でて。らうにとく。のとく。親族一轍中等
うにとく。そくらはる。もれど。のとく。死と絶ります。十二
年。うへゆ。すく。ぞく。扶棺とくらうのくれとく。な
らんこと。お半生のうじゆ乃極。うじゆか。金運入

形とあ門内事と見てうほじのへら室のくも
あゆのを。月のくもと夜のくも。畜生と女とひとと
あらぐく。かく。くわらく。一の子。艶みの牡丹
さくとしげしとく。みちむち。ひよ。けくとみのう。きよ
あひのひじゆら。おとて。おとて。おとて。おとて。おとて。
まくとまくとまくとまくとまく。まくとまくとまくとまくとまくとまく
いゆき。とえづやのとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

洪冠道人。とよひ。とよひ。山乃つて。れす。宿と。
が。あんぐり。り。鬼神。と。ぐり。あくと。あんぐり。かと
を。ぐり。と。これと。も。ひ。べ。と。くら。れ。ふ。も。れ
は。鳥。あ。と。も。り。と。あ。つ。と。確。と。も。り。と。も。く。に
山の。あ。て。れ。も。つ。れ。ば。く。と。して。草。宿。一。雨。あ。わ。る。ぎ
ん。も。う。も。う。り。と。底。と。う。つ。に。高。手。と。お。と。お
と。來。の。ゆ。と。ほ。れ。ち。道。人。の。ゆ。山。林。の。高。手。と。お
ま。い。死。せん。づ。ぐ。ん。と。ま。く。わ。ん。君。う。と。り。う。の
や。ま。う。と。う。ん。と。ま。く。ま。と。ま。く。ま。と。ま。く。ま。と。ま
ま。く。ま。く。ま。く。ま。く。ま。く。ま。く。ま。く。ま。く。ま。く。

法師。さうとゆうとくもうちとくへぎつてうてや
どあくらむ。あくらとくいもく。先まよとくでくづぐる
ます。六十歳やうよ。まぬ報の小み流言にほを
まひく。おもひとくとくとすみつら童子と山
とくさう。けあうく。とくゆうめして。あぐらうり画
門かわゆつうして。一よ田家の壇とほんてげ
とのべく。深度と。存とくとくとくとくとくとくと
らに存のたうれ。ね事化れと。存の體へりあくら
とくみつら是道人乃更後法のくじへり。きのみ
くうちまれまするがりし。やうとの襖。こひやうろ
ひきりゆくうえ。どのく長一丈九寸三尋の壇の

トにうりとくまでとくして。仰と居。一丈九寸三尋の
て。通人八合とくもしてうやまひゆう。通人八合
八合。八合といふ。實に邪氣のもつとくある。
人民と民とく。くつはりのあくらうんぢうとく
とくじうとくとくとく。とくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

もひんと更にうらへてうらへり。聖日元
か山のわらうて謝りんともれどもあくお居のまわ
りてなん人にまぬ飲むがて龍は仰て渴
まれて唾みてあつてす。あくままでうらう
狹冠通人のやうなうらう

二 千将真那・ノシの事

千将真那・ノシの事。祖庭事苑より
アムトヨイと傳つてもしてざくはうとし楚
ゆうべ裏ふ狭のくらむり。えもみどりと
した宮女身とちやうんうちよ狭のくらむり
もづくじてまとうびくのすりひきうるせの
念けりてとさんと仕生れた狭とくら
毛争ふ失のすりやう。聖玉海れ狭とりく千
将も食ドて海とくらじ。千将もそのこと狭
治のからんをり。千将もみちらの狭とりくみ
狹とりくも一と壁一ハ雄らし入奉八狹とくらは
り。狹もどものひきの唯狹一とりく。聖玉
うさぎよめうんでけうざのそこにはまじ。東く
もこの内すてぐれもみけうふわりまわらじ
ぐ群山よくう。ほううく、狹らうくば、雄
行わう。此母雌ゆくうきゆ。雄とやうてうく
りのうりとよめうにうくのこゆくうに雄

ぬるべからむとあどへ。手將をひづらみ
ろくばへさしとふとて確証とりのくじまの
くらの内もくろじよかようせうなうゆく。
我あの東邪よりひときとじよみの眉間にセド
じの時れとみうとびとつとく詩一首。とくその
とくして三将玉令とけじ。とくそれとくら
御人のるとみうとじよみえじ。待の文子曰
日あ小戸南山有松。松生於石。机在其中
ときのちもとのみせり。全と肩間へとくびく。あど
一画人すら者がよそ十ぬりてゆるそひてへく。
又おほくみわらや。毋もみづらに。前事とく



まことに。おとすよ。おとすよ。
うらとりりて風とえむ。波浪とまつらせよ。
をとまくよ。よの風とこうへんがよめ
もとよどきと波浪とく。風とててとく。
主世にせんじとくのぬく。眉間人とく。又のむと
あそんと波背よ人とく。人とく。又のむと
ゆかの。ゆく。ゆか眉間人よわ。どや。尼がゆ
をぬうり。あひのゆく。船と龍山人りし。我とくゆ
ぐ。あうり。又のむとくにしきひ。せんじづく。び
く。自くゆく。我とく。我とく。まげて。飛行

うう君ア。愈々あり。いんじ度べよ。やかの
まにゆく。頸う。びゆく。うらり。風とく。人を
みつら。う。頸とく。御風とく。あ。お
とえく。御ゆく。人裏よ。う。う。う。う。う。う。
く。我と龍山人。う。う。眉間人。う。う。う。う。
と。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

又云觀人（アマシナヒト）、身の外とみぬとひづく主ひらべ
とひく、頭中（カモシハ）小やうに二のくびあひし。觀人（アマシナヒト）
がつごさう、とく代（タケル）められて、どもみつらしうづくじくび
とくねく、昂りつるく。のくとくとあるとく。三の頸
あひ、じうの三海（ミツノミ）に升りゆくとくさむにけり
や都（シテ）かはるゆくとくり又（アリ）鶴泉（タツスイ）ふ所の二海（ミツノミ）あり
醫學（イセイガク）の源流（ヨウリュウ）と稱（スル）す。晉の醫者張良（ザンリョウ）と文
地理（ジリエイ）ともかく表紫氣（ヒラムカイ）とくわせし地（ジ）より天（スカイ）よびりて半
半の弓に立す。あとと龍章（リョウジョウ）の雷換（ライカイ）ゆきぐ。雷換
ちこく。天文地理（テンモンジリエイ）とす。かくして、ち樓（チラフ）
のありて、あとの觀とよく。高換（タカカイ）がいそく。をと寛城（カンジヤマ）

亂下り。モ陳縣（センケン）の地下り天（スカイ）の、からり（カラン）。年（カウ）八
月（ハチ）、九月（クシ）のうち、高換（タカカイ）とよづらを陳縣（センケン）の樹基
とくらめ。空（スカイ）よわく、一の石函（シロカン）とえぞり。
中にぬ湯（ヌダム）あり。浴（ハハル）よーと鶴泉（タツスイ）とくへ。二とば（ハツバ）と
ううきの一と張裏（シラカベ）よどく。もその門（モアゲ）と高換（タカカイ）い
く。多是（ハサシ）のあを。あくと化（カハス）して、うかくとく。又
一と高換（タカカイ）と佩（カガマ）。張花（シラカバ）死（マハリ）とて、たまふ。その海（ミツノミ）
とて、延平津（エンピツ）の行（ル）とく。かよみの海腸（ミツナガ）のうち
きがく。あく。めぐりて、うよ入人（カスガリスルヒト）とて、ましをりと
じよばく。ぬちお境（カニシヨウ）とよざる。のく。長根太（ナガネタ）

たましくらりぬ。あ模がつへとわくらり
玉海巻百八十一とくに。張義がつとお泉ふみ
そもの海乃文とほびくらりむらん。おみつら平
將さりとくく。又海のとく。海南の西平縣よお
象めうり。が海と岸も。とてくすく。利海南
とくもみつら楚分せたりとく。もじゆの本該泉
とおきるから太河とおの名うり。千将真能
望玉乃海祖庵事。花麗人の道もつまびらう
なうりとく。じく。千将うらく
ふの雄海雌海。つるやも偈して石函よへ
か下より。年と経く。晉の町よりあ

こくらて佩とくとく。じるは能とばーとも
中へもあく。偈とく。夫くられ
(三)引馬の徳とく。乾湯洞とく。二女

とはきゆうりあう。じ葉花とせう。す
申湯洞の記。考か新詔もあり。アムとく。
金くらげて紀とえ御のとく。天慶年中のみする
か。路画とく。而す。利の徳運とく。よりのうも
年。あみ。くらゆのう。くらりとく。尊とく。
称う。れ考ふとく。せと。鄉臺。おま。御とく。れど
桂列とく。文底。うとりく。れとく。れとく。よ
まと。よ死。とく。今。よ。津。おとく。う。う。

郡より名山也。日くに獵射となりて事と
てやまとへり。もとからみのそとえど
とらにふ民は病ぬ。かよひあり。敗寔あり。とも
ゆく那。そとくさんをかづく。一女ある。さ
ー十セキ。そとくさんをかづく。煙をしも。まごうじ
とくと親友。隣の里へとくわ。まごうじをみる。ま
くらり。一夕風雨。そとくさんをかづく。女が生
れ。そとくさん。門戸扇。因。漢りのそとくさん
いがく扇。とくとく。官本。はなま。松作。よい乃。
方。くよあき。とくとく。扇。その。おとく。扇。女。よめ。事
ゆつう。折。とくとく。まとい。そとくさん。女の生

もの。け。と。ほ。く。か。か。賊。と。の。り。て。ぱ。き。よ。う。ぐ。ん
の。け。と。ほ。く。か。か。賊。と。の。り。て。ぱ。き。よ。う。ぐ。ん
た。か。年。に。と。と。よ。う。ぐ。ん。と。す。る。馬。法。と。段。も。せ
利。生。一。日。ゆ。と。と。ゆ。く。城。と。か。く。一。乃。扇。ゆ。く
と。く。れ。と。ゆ。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く
事。ゆ。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く
往。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く
と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く
小。山。と。と。く。れ。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く
じ。と。破。と。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く
め。の。れ。わ。り。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く。と。く

しりく。晝の山よりあつてござる。と云ふ。
あよね山。此處の風の聲と聞く。とゆくも
ててかねやりよよ深山。そびきりて來じ。しきくあ
らん。さざつとくへめと鬼神。うくん。よゆくとくを
鑑。人のあつとくとも。栗。ものりりて。どものうとくを
うくの御史。ゆて。門。とすとんで。二のそり。びとく
やく。ばによみらか。前人。くまの頂。よ三山の冠
とらやく。一。黄。すら。袍。ひのす。もる。宿。の。くら。とく
とく。あ。あ。よ。よ。く。度。と。経。と。十。餘。寺。と。の。共
奥。と。う。山。と。深。下。よ。け。く。わ。く。や。れ。わ。く。よ。く。み。と。が
猿。の。あ。く。い。う。り。う。に。ま。生。那。魅。る。と。と。と。

腰の弓。ひ。あ。と。と。り。て。う。す。と。お。十。う。よ。む。わ。
も。の。内。画。山。に。た。く。く。う。り。の。財。勝。よ。う。う。を
と。く。う。き。く。う。る。後。五。一。度。よ。逃。竜。と。ゆ。く。不。と
う。と。く。う。後。と。う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。
坐。う。り。箭。と。す。一。矢。う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。
弓。の。と。矢。と。れ。じ。血。う。血。と。て。ひ。り。く。り。く。門。か。よ。う。う。
山。の。南。く。り。山。く。よ。え。里。よ。と。と。ん。と。一。の。弓
う。と。定。う。り。血。乃。わ。と。完。よ。入。ま。生。わ。る。の。と。に
の。と。ん。と。ト。と。の。と。く。う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。
う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。と。く。う。

しやうりうね先。すこすこ。ね下よ。とあふきみ
とのこつどはうりき。いれども。めりく。
らかと。こみらわらと。めりく。とも。けぬ。
けじゆにあくと。一の石室。あ。額。う。申え
陽洞と。祀と。門と。まれうちの。ね。ま。そ。の。し。ゆ。を
眼。又。堂。ゆく。よ。み。一。所。の。と。も。生。と。も。死。に。な。る。
きて。い。く。ゆ。い。ん。と。う。に。う。や。と。も。生。じ。を
き。て。ゆ。く。く。ト。死。れ。ん。人。を。く。城。郊。に。居
して。醫。道。と。も。業。と。業。経。よ。ど。り。に。う。の
よ。ふ。入。く。ぐ。ひ。も。も。も。も。も。も。も。も。も。も。
わ。や。う。り。く。う。に。ゆ。ら。う。ね。う。く。と。も。ひ。と。も。

へ。門と。や。あ。ひ。よ。の。よ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
あ。壁。よ。と。と。い。く。め。と。と。と。醫。と。業。と。せ。じ。ぐ。
人の。あ。よ。活。療。と。ん。や。も。生。グ。い。く。是。や。と。祀。す
く。り。と。門。と。ま。り。う。り。の。や。は。う。と。う。と。う。と。う。
く。室。と。う。え。う。り。く。シ。う。の。ま。生。す。の。を。う。と。や
の。ゆ。い。と。う。門。と。ま。り。う。り。の。や。く。我。君。半。陽。侯。ぬ
る。す。て。あ。モ。づ。く。に。流。失。の。あ。も。あ。れ。や。さ。い。ふ
し。そ。廢。す。わ。り。ゆ。え。と。う。か。う。と。と。う。か。う。と。う。か。う。
ト。と。門。や。も。産。せ。や。う。つ。ゆ。と。と。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。
と。則。え。人の。と。も。代。ほ。く。と。と。と。と。と。と。と。

弓
骨髓もううじろくともとえそ。残念にううとまつづ
きつあゆりて。被脣もううりて。髪髪と服もうと服
せぐとあうむもあ生と。達宿と。もの生衣と
さやうして。入室門と。うう曲廊と。幕際と
とよ。襖襖と。ううやうもううの先篠と
て。石の床と。よのべかと。呻と。あやど。美女と
よけりの三人。よかとえらぬと。ううれや
よをと三人。よらううよの脉と。診と。もの瘡と。あで
ううううして。いとく。わゆうううんや。辛口。紅角の
まわり。うだやうひと活と。うのと。あどと。是と

べ。今のであいあくす。やうと。ううめのと。はるよ
うみと。うけ薪と。ゆきと。うくまうじ。群猿
長生の後と。まく。長生と。えい。じと。のど。みみ。を。ま
はうりて。擦と。いとく。も。騒と。と。ふ。是。人。う。
こ。ま。い。て。あ。い。り。我。君。と。ど。も。は。草。と。え。と。今。と
あ。く。に。我。ふ。に。う。ん。と。一。刀。主。と。あ。り。と。い。え。と。今。と
あ。生。は。あ。も。と。つ。と。う。と。ほ。と。お。と。ぎ。と。
と。う。と。ぎ。と。う。と。び。や。う。と。う。と。ひ。と。う。と。ぎ。と。
辭儀と。み。つ。ら。あ。く。に。地。よ。う。れ。う。く。と。う。と。
事。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。
と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。

父もばゆま毒氣とどりて死。ハリんや今うごよ
うれうがよもやゆくよもらうたはよとゆかり。
さのよ生山に入く麻とひゆくもこれとく
今まともらもよらに変故石儀もくりてあと
みくもわらよ生これとくとくとくとくと
えあやうそ猿とくとく。又小三十六ひり。又
三人の女。れぞもくとく猿うぐべ。やうく
ゆきとくとくとくとくとくとくとくとくと
めで猿よわらげりうり。ゆうとくとくとくと
まくの主もんと。よ生らるくにきの姫君姫君と
よ三女とくはよくにくとくとくとくとくとく

ち漬とく。じとくとく。その二女わくと追黒とく。
のひとめうり。よ生三女とく。ゆうとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
褐裏とく。うり。かげゆく。額はくとくのうり。はくと
里とゆくとくに白衣れりのゆくとくとくとく
銀ふき二十八齋のしら虚星の様うり。スーと
ふあくとく。うり。妹様のくあもうづく。はくと
うりとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
よもくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



一り金五のあぐひとかへ。まよ生、がやくとくら。
まよ生、がいとくさんじうとくとも。神海とがくとくさん
ぞきみづらもむかじうそやと白衣のまゆく。
おもてうごめ百累、うれどぞも八百累。とくとく
歌うちとあこうとくろに群猿。ゆきとくもあけり
ぞうは。あごとくもくとくとくもづく。せとくづく
しきゆく。答とえもえとくと居ゆくのとくをと
かくとくがわくさんわよ君一人とくとく制す
ふくさんわとくとくとくとくとくとくとくと
はくとく。洞と申湯とさうはその波いづくわ
やぬのとく。猿とくみづら申のあぐひより。わ

極へり。豈とぞりてり。而く義名とりのくと。我
の國にあらまわす。また生がへそ。而もやきり
て。やくにゆうつうり。ゆづつち序路もみり。かく
しゆえうめよ。向をひそく。山田とづくと。もと
らくせど。序路とびべー。また生そ乃よ。がくくを。蜀
駿の日より。もと。度風暴雨の。ふと。蜀駿で
即と。む。も。バ。乃。大。ぬ。漏。駿。て。あ。ま。り。群
扇。水。ひ。と。く。り。ぬ。み。ね。駿。う。れ。り。え。よ
う。り。の。た。元。と。う。じ。り。て。馬。駿。ふ。通。と。し。
も。え。う。じ。す。生。と。み。く。う。三。女。と。ひ。あ。ぬ。
ち。も。む。く。う。は。五。ノ。ト。して。鐵。箱。が。け。と。く。

え。そ。だ。こ。乃。車。と。く。く。は。と。ま。つ。ら。流。箱。が。け。
り。れ。ど。く。か。る。の。く。ま。す。と。一。糸。く。ぶ。と。く。ら
り。と。く。へ。一。糸。く。に。ゆ。く。も。く。婿。と。く。と。り。り。そ。の
二。女。と。か。む。よ。く。三。糸。く。に。け。り。と。く。ぎ。り。ん。と。く。絹。糸。ぐ。利。
利。生。一。射。ゆ。て。三。女。と。ち。と。ひ。や。り。又。生。絹。糸。
も。う。や。う。一。糸。く。射。糸。乃。く。ら。く。れ。

奇異雜談集卷第六終

孟春穀日

江都富野治左衛門 繡
京上茨木多左衛門 梓

